

貨物会社回答！「1.61箇月分、7月5日支払い」

物価高騰を前に、社員の生活実態は深刻化している！



経営陣には社員・家族の切望する声が聞こえないのか！

2023年度下期よりも2022年度下期が悪化していることを理由 今度は「4期連続の赤字はなんとしても避けたい」とする主張は受け入れられない！

6月13日、2024年度「夏季手当」についての回答を貨物会社から受けた。

席上本部は、「原油価格の高騰や、生活必需品の相次ぐ値上げで生活は厳しさを増している中で、春闘では有額回答があったものの、貨物会社の賃金は物価高騰に追いつかず、月数で昨年実績より低い回答に社員と家族は落胆しかない。この間、自然災害への対応や会社施策への協力を続け、会社の収入改善に向けて努力を続けてきた社員に何ら報いることなく、経営課題を最優先する姿勢は社員に責任転嫁するものでしかない」として、①物価上昇による景気低迷や、繰り返される自然災害での収入減を理由とする低額回答ありきの全く誠意の見られないものでしかない。②景気低迷を受け厳しい経営状況である中においても、長期ビジョンで示した設備投資は計画通り進めることとしていることから、社員に対して人件費を増額し、日々の労苦に報い、将来展望を示すことが求められている。③環境問題をはじめ、「2024問題」や「物流革新緊急パッケージ」などこれまでにない貨物鉄道輸送入の追い風の中で「公共輸送機関」の使命として安全・安定輸送に努力する社員感情を逆撫でするものでしかない。④新しい人事制度で会社が繰返し説明した「生き生きとやりがいのある制度」との主旨を自ら否定する回答である。⑤経営に影響を与える数々の根幹問題を先送りしたものであり、社員犠牲の経営を続けている経営陣の責任は重大であると嚴重に抗議を行った。

これに対し、会社は、「貴組合の指摘は受け止めるが、会社として最終判断した中身であり、最終回答である」との見解に終始した。最後に本部は、「本日の夏季手当の低額回答は、社員と家族の生活実態を全く無視した一方的な姿勢であり、到底認められるものではなく極めて不満な回答である」と重ねて抗議し、取り扱いについては「持ち帰り」とした。

経営陣は社員犠牲の姿勢を改め、 社員の生活を最優先に考えるべきである！



経営課題を理由とする低額回答に抗議！
社員の生活最優先の夏季手当の支払いを！

「低額回答」への抗議と要請行動
※6月20(木)正午まで